

生まれる直前の胎児（胎盤、羊水の重さを含めて約五キログラム）のモデルを石膏で作る、その重さを体感させようとする教材です。モデルを体につけ、歩いたり、寝たりして、その重さを体感した児童は、母親の体内にいたときの自分を想像し、母親の苦労を感じていました。児童からは、モデルを扱うととてもわかりやすい、モデルが柔らかいこともよい、などの感想が出されました。

(2) はりつけ法による地層モデルづくり

この教材は、実際の地層から構成物を探取してベニヤ板にはりつけ、地層を再現するものです。



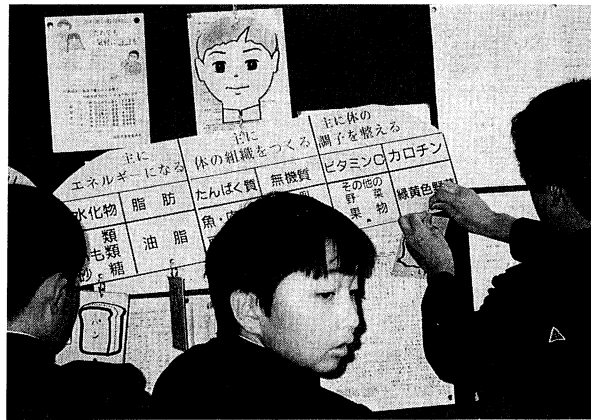
土をベニヤ板にはりつけている児童

実際に土を手に取り、モデルを作製して

く過程で、粒子の特徴や重なり方など、細かい観察ができました。また、児童の中から、立体的なモデルを工夫すればもっとわかりやすいのではという意見が出されました。

(3) 栄養バランス君

この原理を利用し、栄養のバランスの状態を視覚的にとらえようとする教材です。



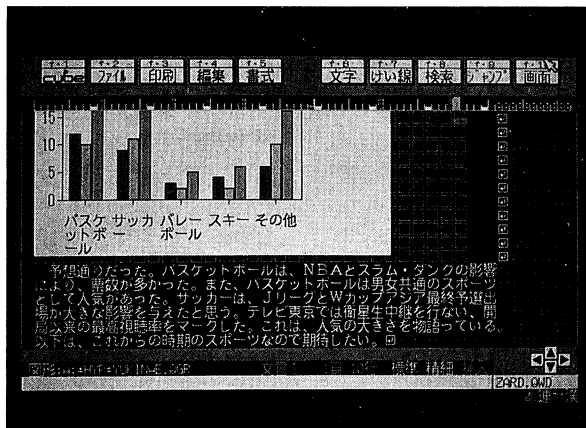
栄養バランス君を使って献立を修正している生徒

人形の傾き加減から、栄養素の何が不足か、見てすぐにわかるので、献立の修正に関心を持って取り組みました。

(4) アンケートを集計して報告書を作ろう

この教材は、アンケートのデータをもとに、その集計、整理、グラフの作成、さらに報告書の作成まで、一連の情報処理をワープロ、

表計算、データベース等の機能を有した統合型ソフトウェアを利用し、コンピュータを活用して行うものです。



ワープロのソフトウェアにグラフを取り込み報告書を作成した画面

生徒からは、思い通りにコンピュータを使うことができうれしかった、もっと別なデータの処理をやってみたい、などの感想が出されました。

三 ま と め

授業での児童生徒の反応や諸調査の結果から、開発した教材は児童生徒の創造性を高めるために成果をあげることができました。研究の詳細については、平成五年度当センター研究紀要をご覧ください。